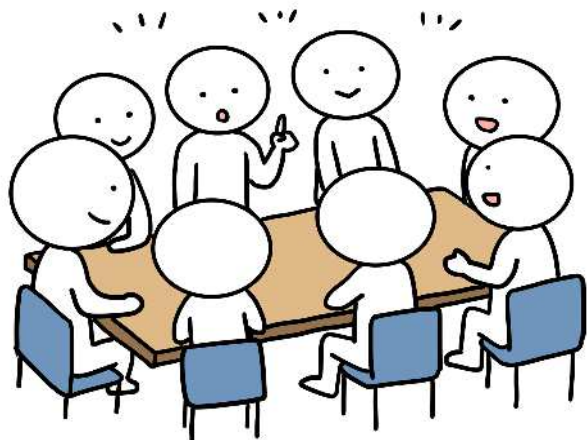


減容化・再生利用と復興を考える知のネットワーク会合(第11回)
理解醸成活動ー福島から全国へー

総合討議に向けた論点提供



立教大学 環境学部開設準備室
准教授 森 朋子

森 朋子 Tomoko Mori

博士（環境学）

立教大学 環境学部開設準備室 准教授

国立研究開発法人国立環境研究所 客員研究員

研究キーワード:

シティズンシップ教育、環境教育、持続可能な開発のための教育
(Education for Sustainable development: ESD)
シビック・アクション、統計分析

経 歴

2004年	京都大学大学院工学研究科環境工学専攻修了（修士）	
2004～2008年	(株)三菱総合研究所 研究員	
2013～2017年	(公財) 廃棄物・3R研究財団 上席研究員	
2018年	東京大学大学院新領域創成科学研究科（博士）	
2017～2021年	国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター	特別研究員
2021～2023年	国土舘大学 政経学部政治行政学科 専任講師	
2023～2025年	東京都市大学 環境学部環境経営システム学科	准教授



最近の研究

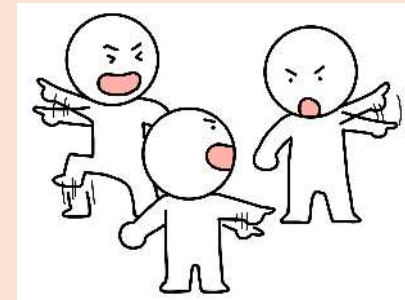
シビック・アクションを促進するための教育プログラム開発

- **他者と協働し、社会に働きかけるアクション（シビック・アクション）**を実践できるようになるための中学生向け教育プログラム。
- モデルプログラムが完成し、既に複数の学校での実践が進んでいる。



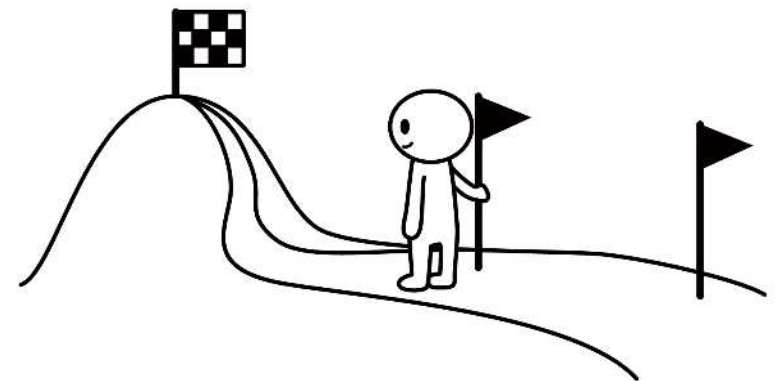
環境分野におけるコンフリクトへの対処教育プログラム開発

- 教育分野で蓄積されてきた教室内外での衝突対処教育の知見と、環境分野での衝突緩和事例を通して得られた実践知を活かして、**教室内的探究学習と福島現地への対話型教育旅行を組み合わせた中高生向けの衝突対処教育プログラム**を開発・試行・評価する。



理解醸成活動が全体として目指すゴール

- 全国的にこの問題の認知度、問題に対する主体性(自分事化)が高まり、様々な場・レベルでの議論が活発化する。
- この問題に対する国民的な議論を機に、その他の社会課題に対しても関心が高まり、問題解決に向けた国民全体の参加意欲やスキルが向上する。



理解醸成活動のターゲットは誰？

- **地域**

関東圏、人口が多い地域(都市部)、全国すべて

- **年齢**

2045年に社会の担い手となっている今の若者
今の社会の担い手(30～50代)、意思決定権を持つ年配者

- **関心度**

関心の高い層、無関心層、潜在的関心層

- **経験度**

福島への訪問経験がある人、除染に関わる現場に来た経験がある人、
福島での居住・就労経験がある人など

- **社会における役割**

企業、NGO団体、地域団体、教育関連団体など

ターゲットに届けるための仕掛け、場とは？

- **学校等での学びの場**

中学校、高校、大学での授業、課外活動など

- **福島現地への訪問**

ホープツーリズム、観光客の誘致など

- **福島県外での広報&議論の場**

各種イベントの活用、市民会議の開催など

- **デジタルを活用した仕掛け**

SNSの活用、デジタル民主主義としての仕掛けなど

- **環境再生以外のネットワーク・場の活用**

教育、ビジネス、防災など他分野との連携など

こんな仕掛け・場が進行中

大学生、高専、高校生を対象とした 講義および現地視察ワークショップ

- 2017年より次世代の原子力技術者、大学生、自治体職員を対象とした教育プログラムを実施。累計参加者は5634名に。
- 全国の大学生を対象に福島県内の環境再生関連施設への訪問、および意見交換型のワークショップを実施。

五井平和財団と3つの中学・高校 による学校協働SDGsチャレンジ

- 福島県産オーガニックコットンのタオル販売を通じた広報
- 中高生による中高生のための福島スタディ・ツアーの実施



麗澤中学・高等学校ウェブサイトより